

POLAR BIRD ASTROLOGY

Core

2026年 太陽回帰図分析

一年のテーマを読み解く星まわり

対象期間 2026.05.06 - 2027.05.07



内: 出生 / 中: 進行 / 外: 太陽回帰

- ☉ 太陽
- ☾ 月
- ♿ 水星
- ♀ 金星
- ♂ 火星

- ♃ 木星
- ♄ 土星
- ♅ 天王星
- ♆ 海王星
- ♇ 冥王星

- ⊗ パートオブフォーチュン
- ♁ ドラゴンヘッド
- ♏ ドラゴンテイル
- ♋ キロン

- Asc アセンダント
- MC MC (ミッドヘブン)
- Dsc デイセンダント
- IC IC (イムム・コエリ)

目次

❖ Coreの今年の全体テーマ

❖ 今年のテーマが表れやすいCoreの活動領域

- ◆ 公開される言葉と説明の精度
- ◆ 価値、参加、協働の場
- ◆ 表の方向性と内側の運用感

❖ コミュニティの空気と整え方

❖ Coreの今年をコミュニティで活かすヒント

- ◆ 方向性を「速さ」ではなく「続く価値」として見る
- ◆ 言葉の精度をコミュニティの資産にする
- ◆ 理想を大きくしすぎず、基準へ落とす
- ◆ 反応の温度感を言葉に戻す
- ◆ 見える場所と見えない支えを同時に見る



❖ Coreの今年の全体テーマ

2026年のCoreは、勢いを外へ広げるだけの年ではなく、**見えている方向性を、より安定した言葉と形で示し直す年**として読めます。今年の太陽は牡牛座10ハウスにあり、MCも牡牛座です。さらにASCは獅子座で、その支配星である太陽も10ハウスに置かれています。Coreの今年は、目指す方向、外から見える姿、継続して示す価値が、表の場で強く問われる配置です。

ここで大事なのは、派手に新しさを打ち出すことより、**信頼できる輪郭を太くすること**です。牡牛座の太陽とMCは、短期的な刺激ではなく、積み上げ、安定性、具体的な価値を重視します。Coreの象徴的な一年は、見せ方を急に変えるというより、すでにある方向性を「これは続いていくものだ」と感じられる形へ整える流れです。

今年の水星も10ハウスにあり、MCの近くにあります。Coreにとって2026年は、存在感そのものだけでなく、**説明の仕方、思想の伝え方、外から理解される言葉**が大きなテーマになります。技術的な中身や理念がどれほど強くても、今年はそれがどう語られ、どう受け止められ、どの言葉ならコミュニティの中で共有されやすいかが重要です。

一方で、今年の太陽はASC/DSC軸とスクエアを作ります。表に出る方向性と、外から見たCoreの印象、ユーザーや開発者、参加者との距離感の間に、調整の圧が生まれやすい配置です。**Coreの今年は、ただ前に出る年ではなく、見え方と関わり方を同時に整える年**です。方向性を強く示すほど、それをどう受け止めるか、どこに参加の余地があるか、何を期待してよいのかという問いも強くなります。

出生時の配置との橋渡しでは、今年の太陽はCoreの出生時の太陽と同じく10ハウスのテーマを強く起動します。Coreがもともと持つ表に出る役割、社会的に見える方向性、プロジェクトとしての存在感が、今年あらためて年テーマとして前に出ることを示します。**2026年は、Coreらしさを内側に閉じず、外から見える構造として確認し直す年**です。

進行の太陽も牡牛座にあり、今年の太陽と同じように、急変よりも継続性、価値、実感のある方向性を支えています。太陽回帰の10ハウステーマを主旋律にしなが、内側の季節としても、Coreの象徴は「一度見せた方向を、より確かな形へ育てる」側へ寄っています。



❖ 今年のテーマが表れやすいCoreの活動領域

◆ 公開される言葉と説明の精度

今年もっとも表に出やすい領域は、Coreの思想や方向性をどう説明するかです。太陽回帰の水星が10ハウスでMC近くにあり、さらに今年の水と水星がトラインを作っています。これは、Coreの周りで起きる反応や期待を、感覚のまま放置せず、言葉にして整理しやすい配置です。**Coreの2026年は、説明が単なる補足ではなく、信頼を作る中心的な活動になります。**

この水星は牡牛座にあります。したがって、言葉は速さや複雑さよりも、納得しやすさ、繰り返し読める安定感、実感に近い表現が力を持ちます。抽象的な理想を大きく掲げるより、どの部分がCoreの強さなのか、何が積み上がっているのか、どの言葉ならコミュニティの中で共有され続けるのかが焦点になります。

水星はドラゴンヘッド/ドラゴンテイル軸に対して、セクスタイル/トラインの調和関係を作ります。これは、Coreの言葉が単に情報を伝えるだけでなく、コミュニティがどの方向へ関心を向けるかを整える役割を持ちやすいことを示します。**今年の言葉は、Coreを見る視線の向きをそろえるための道具**です。難しい概念ほど、短く言い切るより、繰り返し確認できる文脈として置くことが大切になります。

同時に、水星と冥王星のスクエアもあります。説明の強さは、深掘りや問い直しも呼びます。曖昧な言葉は引き締められ、強すぎる言葉は再検討されやすい。Coreの今年の言語環境は、やさしいだけでも、鋭いだけでも足りません。**深い問いに耐える言葉を、コミュニティが扱いやすい形にすることが求められます。**

◆ 価値、参加、協働の場

今年の金星は双子座11ハウスにあります。Coreにとって、価値は一方向に示されるだけでなく、会話の中で確かめられ、参加者どうしのやり取りを通じて見えやすくなります。どのように関わるか、どんな話題が人をつなぐか、どの接点から参加しやすいかが、今年の活動領域として目立ちます。

この金星は、軽い盛り上がりをも、より意味のある参加へ育てようとしています。9ハウスには火星、土星、海王星が集まり、Coreの大きな思想、信念、長期的な見方、共有される基準の領域が強くなっています。**今年の参加は、雰囲気だけで広がるより、何を大切にできる場なのかが見えるほど安定します。**

土星が9ハウスにあるため、Coreの象徴的な一年では、理念や広いビジョンに「守るべき基準」を持たせることが大切です。海王星も9ハウスにあり、理想や期待は大きくなりやすい。そこへ火星も入るため、議論や主張には熱が入りやすい配置です。ここで必要なのは、熱量を抑えることではなく、**理想を現実の言葉、参加のルール、共有しやすい視点へ落とすこと**です。

出生時の配置との橋渡しでは、今年、海王星が出生時の金星に重なります。これは、Coreが持つ価値や魅力の見え方に、理想性や夢の広がりや重なりやすいことを示します。期待が豊かに膨らむ一方で、受け取る側がそれぞれのイメージを投影しやすい配置でもあります。**Coreの魅力は、今年、想像力を呼びます。だからこそ、共有される言葉と基準が大切になります。**

今年の金星は出生時のChironともセクスタイルです。これは、参加や対話の場が、扱いにくい違和感をやわらげる働きを持ちやすいことを示します。Coreの周りで「ここはどう理解すればいいのか」という微妙な問いが出たとき、断定で押し切るより、複数の受け止め方を言葉にするほうが、関わりやすい場を育てます。

◆ 表の方向性と内側の運用感

今年の冥王星は水瓶座6ハウスにあり、MCとスクエアを作ります。これは、表に見える方向性と、日々の運用、細かな設計、継続的なメンテナンス感覚の間に、深い調整が起こりやすい配置です。**Coreの今年の見え方は、舞台上の言葉だけでなく、裏側の整え方によって説得力を持ちます。**

水瓶座6ハウスの冥王星は、システム的な働き方、細部の再編、見えにくいルーティンの変化を示します。Coreの象徴的な一年では、外から見える方向性を支えるために、日常的な調整、役割分担、運用の質が重くなります。この静かな整備が、今年の10ハウスの強さを支える土台です。

太陽と木星のセクスタイルもあり、Coreの方向性には、広がりや保護的な余白が加わります。木星は12ハウスにあるため、その広がりや表立った拡大感だけではなく、見えない支え、裏側の蓄積、静かな信頼として働きます。**2026年のCoreは、見える場所で語りながら、見えない場所で支えを厚くする年**です。



❖ コミュニティの空気と整え方

今年の月は山羊座5ハウスにあります。Coreの周りのコミュニティの空気は、ただ楽しく盛り上がるというより、創造的な反応をどう形にするか、楽しさをどう続くものにするかへ向きやすい配置です。**反応の温度感は、軽い熱狂よりも、形に残る納得感を求めます。**

山羊座の月は、感情をそのまま広げるより、責任ある形、秩序、成果につながる形へ整えようとしています。5ハウスなので、反応そのものには創造性があります。楽しむ、表現する、共有する、期待するという動きは出やすい。ただし、その反応は「なんとなく楽しい」だけでは落ち着きません。Coreの今年のコミュニティは、楽しさと同時に、何が確かで、何を見ればよいのかを求めやすくなります。

月と水星のトラインは、この空気を整える力です。反応を言葉にし、曖昧な期待を説明し、受け止め方を共有する流れが作れます。**コミュニティの空気は、言葉にされたときに安定します。**今年、感じていることを整理する投稿、対話、解説、確認が、場の温度を整える役割を持ちます。

一方で、月は土星とスクエア、海王星ともスクエアです。これは、反応の温度感に、硬さと曖昧さが同時に入りやすいことを示します。土星は「ちゃんとしているか」「基準があるか」を問い、海王星は「もっと大きな理想があるのでは」と感じさせます。**コミュニティの受け止め方は、期待が大きいほど、説明と基準を必要とします。**

月はドラゴンヘッド/ドラゴンテイル軸に対して、セクスタイル/ラインの調和関係を作ります。Coreの周りで生まれる反応は、今年の方角から外れたノイズというより、次にどの視点を育てるかを示す素材になりやすい。反応を単に良い・悪いで分けるより、どの声が場を育て、どの声が過去の慣れに戻しているのかを見分けることが大切です。

この月の配置から見ると、今年の整え方は「盛り上げる」より「温度を持続させる」です。Coreの象徴的な一年では、強い言葉で場を動かすより、反応が出たあとに、意味を説明し、共有できる視点へ戻し、次の参加につなげることが効きます。**反応を管理するのではなく、反応が育つ場所を整えることが、今年のコミュニティの鍵です。**



❖ Coreの今年をコミュニティで活かすヒント

◆ 方向性を「速さ」ではなく「続く価値」として見る

今年のCoreは、牡牛座10ハウスの太陽と牡牛座MCが、表に見える価値を安定して示すテーマを強く反復しています。獅子座ASCの支配星もこの太陽なので、コミュニティでこの年を活かすには、短期的な動きの有無だけで判断するより、Coreが何を継続的な価値として見せようとしているのかを見ることが大切です。**今年は、速く変わるものより、残り続ける輪郭を読む年**です。

◆ 言葉の精度をコミュニティの資産にする

水星が10ハウスでMC近くにあるため、Coreの今年は説明が大きな力を持ちます。コミュニティメンバーにとっては、強い言葉をただ受け取るだけでなく、どう言えば伝わるか、どの表現なら誤解が減るか、どの比喩ならCoreの価値が共有されやすいかを考えることが、参加の一部になります。**今年という言葉は、Coreを外へ見せるための共通インフラになります。**

◆ 理想を大きくしすぎず、基準へ落とす

9ハウスの土星・海王星・火星は、Coreの大きな思想やビジョンに熱を与えます。同時に、理想が膨らむほど、基準や説明が必要になります。今年は「何を期待するか」だけでなく、「どの基準で見ればよいか」を共有すると、場が安定します。**理想は、基準を持つことでコミュニティの中に残ります。**

◆ 反応の温度感を言葉に戻す

山羊座5ハウスの月は、コミュニティの反応を楽しいまま放置せず、形にして残そうとします。盛り上がり、違和感、期待、慎重さが出たとき、それを誰かの感情として片づけるのではなく、どんな見方が生まれているのかを整理することが大切です。**反応の背景が共有されるほど、Coreの今年の空気は扱いやすくなります。**

◆ 見える場所と見えない支えを同時に見る

10ハウスの強さは、Coreの表に出る方向性を強くします。一方で、12ハウスの木星と6ハウスの冥王星は、見えない支えや日々の調整も今年の重要な層であることを示します。コミュニティでCoreを見るときは、表に出た言葉だけでなく、それを支える習慣、運用、裏側の整え方にも目を向けると、この一年の象徴が立体的に見えてきます。**Coreの2026年は、表の方向性と裏側の整備が一緒に進むほど強くなります。**



作成基準

対象期間 2026年5月6日 18:58 (JST) - 2027年5月7日 00:34 (JST)

出生図

基準日時 2022年5月6日 19:35 (JST)

基準地 Bratislava, Slovakia

太陽回帰図

年度 2026年

基準日時 2026年5月6日 18:58 (JST)

基準地 Bratislava, Slovakia

方式 トロピカル / プラシーダス / True Node